

池島・福万寺遺跡

現地説明会



いけ しま ふく まん じ い せき 池島・福万寺遺跡はタイムマシン

池島・福万寺遺跡は八尾市と東大阪市にまたがる大きな遺跡で、治水緑地の建設にともなって発掘調査がつづけられています。これらの発掘調査によっていろいろな時代のようなすがだんだんとあきらかになり、この遺跡の大切さがわかってきました。

やよい じ だい 弥生時代 (2400年前～1700年前ころ)

弥生時代は日本でもコメ作りがはじまった時代です。

ここ池島・福万寺遺跡でも、弥生時代の田んぼが見つかっています。弥生時代の田んぼは5m四方前後のものが多く、現在の田んぼにくらべてとても小さいものであったことがわかってきています。残念ながらムラのあった場所はわかっていませんが、さほど遠くないところにムラがあったのでしょうか。



コメづくり

豊作!

こふん じ だい 古墳時代 (1700年前～1400年前ころ)

古墳時代は各地で大小さまざまな古墳が作られた時代です。ここ池島・福万寺遺跡の東にも心合寺山古墳という大きな古墳が作られています。

池島・福万寺遺跡では古墳は見つかりませんが、今回の調査で建物や井戸などが見つかり、古墳時代にはムラになっていたことがわかってきました。そこからはお祭りやお供えにつかった「玉」などもたくさん出土し、失敗品も出土することから、このムラで作っていたのでは、とも考えられています。

このほか、このムラからは煮炊きにつかったカマドがたくさん出土することが非常に特徴的な点だといえます。



ムラと玉づくり

だれでもが作れるってわけじゃないんだヨ



条里制

大きな正方形の田んぼがきちんとならんでいたのだ

な 良 ・ へいあん じ だい 奈良・平安時代 (1300年前～800年前ころ)

奈良・平安時代は、奈良に平城京、京都に平安京という大きな都がおかれたはなやかな時代です。

それにくらべると、ここ池島・福万寺遺跡のあたりにはのどかな田畑がひろがっていたようです。

ただ、調査の結果、弥生時代の小さな田んぼではなく、正方形にきちんと区切られた大きな田畑がつくられたことがわかりました(条里制)。

ただ、調査の結果、弥生時代の小さな田んぼではなく、正方形にきちんと区切られた大きな田畑がつくられたことがわかりました(条里制)。

島畑と河内木綿



かまくら じ だい げんだい 鎌倉時代～現代 (800年前～いま)

ここ池島・福万寺遺跡の周辺では、鎌倉時代から現代にいたるまで、正方形に区切られた条里の地割りをまもりつづけていたことがわかってきました。

とくにこのあたりでは田の一部を高くした「島畑」がつくられていたことが発掘調査によってあきらかになりました。

江戸時代にはそこで綿をさかんに栽培し、それをつかって有名な「河内木綿」をつくっていたことがわかっています。

コメ作りのはじまりと池島・福万寺遺跡

池島・福万寺遺跡では、最近の調査でこれまで見つかった時期よりも古い、今からおよそ2300年前（弥生時代前期中頃）の田んぼ（水田）が見つかりました。この田んぼは、河内平野で発掘された中では最も古いもののひとつと考えられ、この地域のコメ作りのはじまりを考える上で重要な成果となります。

また、その下の地面をさらに深く調べた結果、縄文時代から弥生時代にかけての自然環境の移り変わりも明らかになってきました。およそ6000年前この辺りでは海が深く入っていましたが、その後東の山から流れてくる川によって多くの土や砂が運ばれ、だんだんと陸地が作られていきました。最初は、所々に沼地が広がるような湿った土地でしたが、その後何度も土砂に覆われている間に、コメ作りが可能な土地へと変わりました。

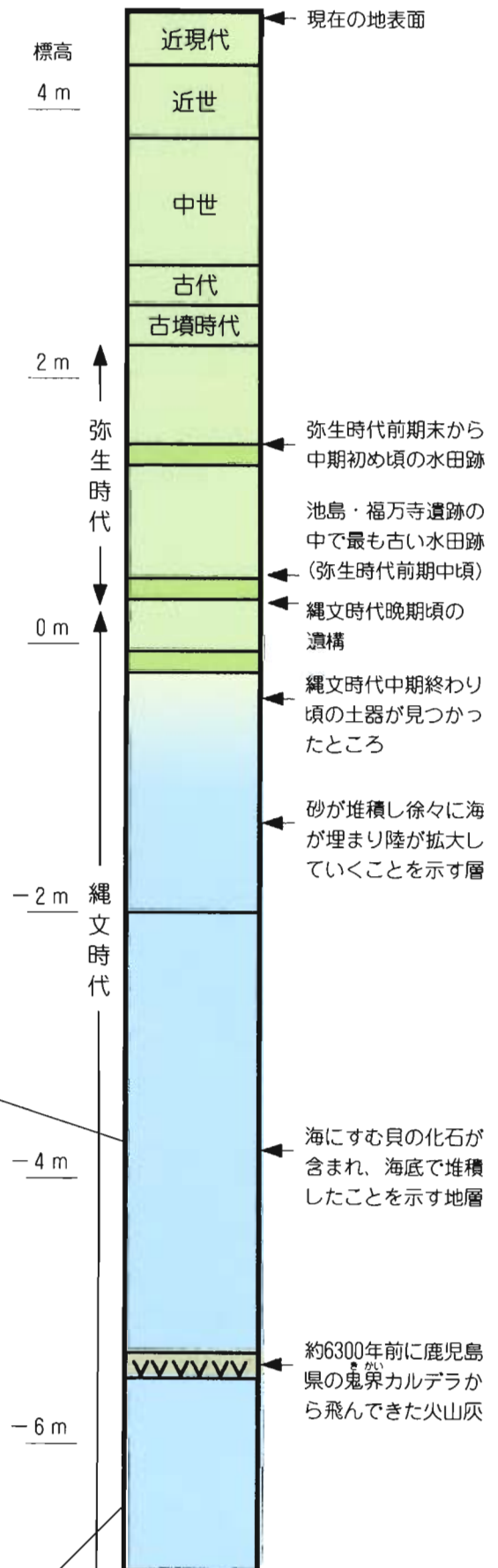
そこで今回の現地説明会では、コメ作りのはじまりと自然環境の^{かが}関わりについて、弥生時代初め頃の田んぼを中心に紹介していきたいと思います。



縄文時代晩期の遺構



縄文時代中期終わり頃の土器



池島・福万寺遺跡の地下の様子

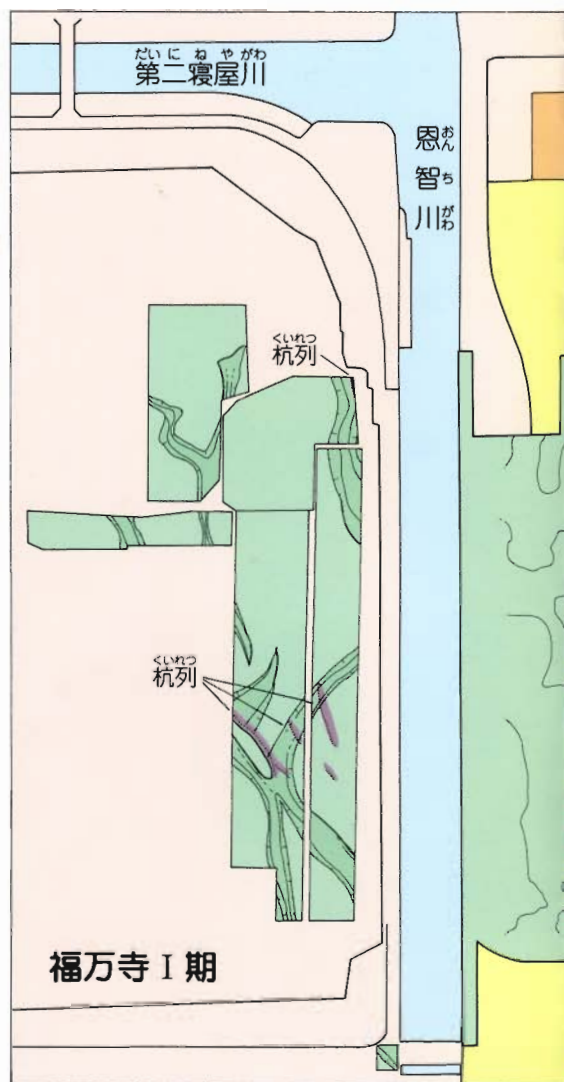
田んぼ作りのフロンティア（弥生時代前期中頃）

池島・福万寺遺跡では、今までの調査で最も古いと考えられてきた田んぼの数十センチメートル下の地層から、さらに古い時代（今から約2300年前）の田んぼの跡が見つかるようになりました。これは、河内平野の原っぱを切り開いていく最前線の田んぼであったといえるでしょう。この発掘された田んぼは、きわめて狭い範囲にしか見つかっていませんが、^{しっち}湿地を埋める洪水によってできた砂の高まりの周辺に作られていることがわかってきました。また、コメ作りに必要な水を得るための水路や^{せき}堰は見つかっていません。

これらの田んぼのまわりにある低い土地には、湿地になったことを示す地層が堆積しています。この地層の中から、水深数十センチメートルくらいで育つヒシの実がたくさん見つかりました。コメ作りをしているうちに土地があたり一面水浸しになってしまったのです。また、この地層からは、私たちの祖先の足跡やトリやイノシシ、シカなどの動物の足跡がたくさんみつかります。少し水がひいた時に食料やエサを求めて湿地までやって来たのでしょう。



杭列



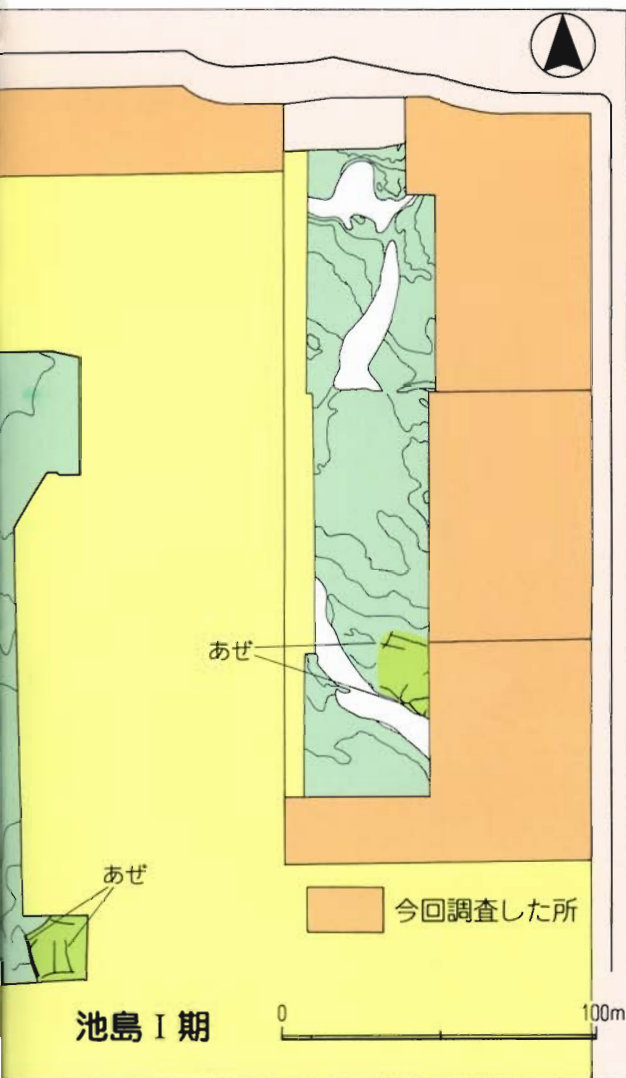
水田



地層の様子



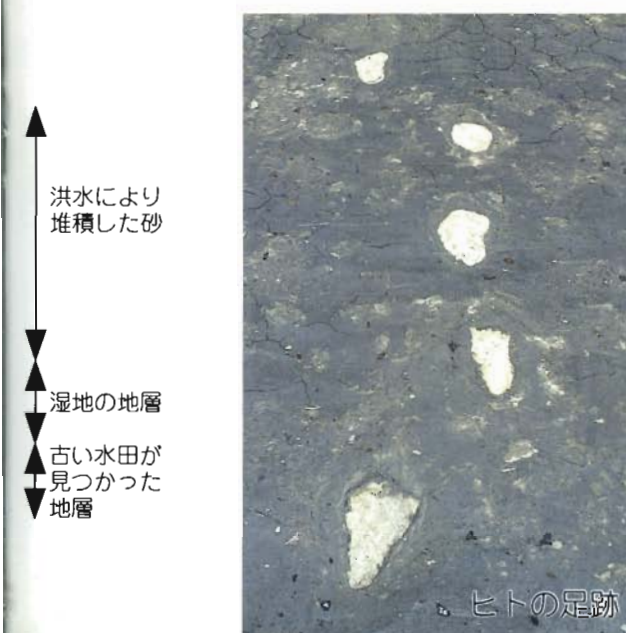
土器



水田

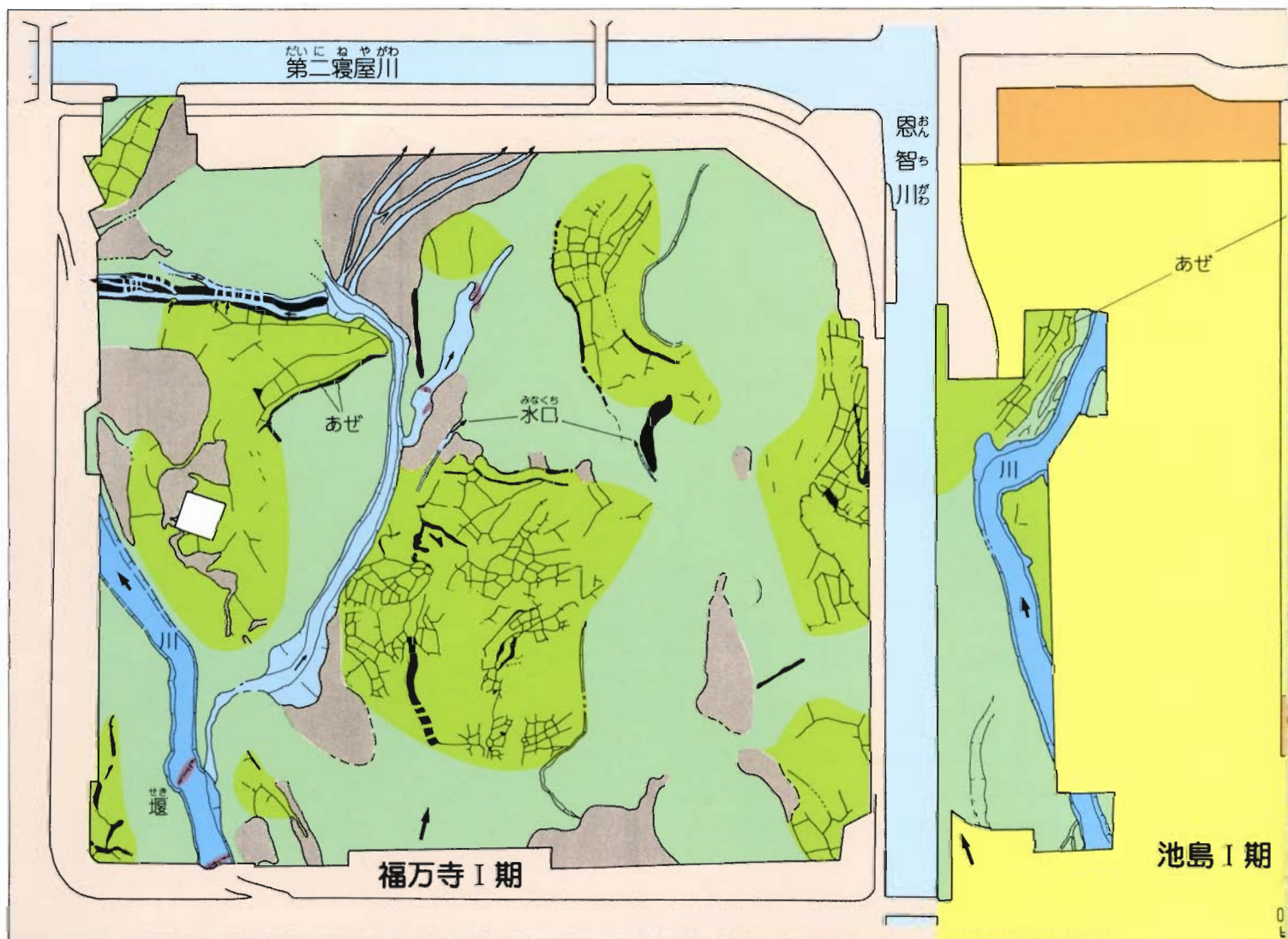


水田



大洪水と拡大したコメ作り（弥生時代前期末から中期初め頃）

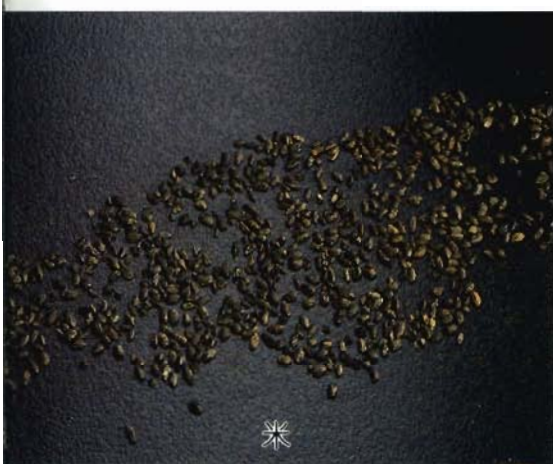
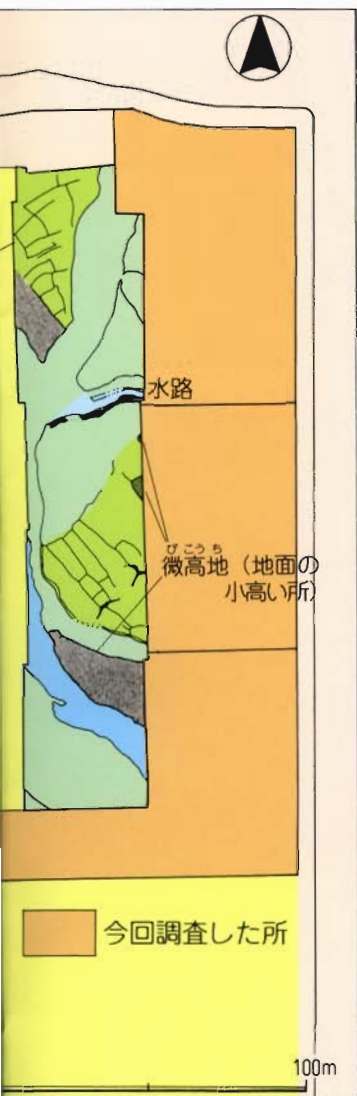
弥生時代前期の終わり頃（今から約2200年前）になると池島・福万寺遺跡周辺では、広い範囲でコメ作りが行われるようになりました。この田んぼは、水の得にくい高い場所や水浸しになる低い場所を避けて作られています。この時期については、田んぼだけではなく、それを^{うる}潤すために必要な水を得るための^{せき}堰や水路も見つかっています。また、田んぼのまとまりが点在することがわかりました。ただし、これらは前期中頃の田んぼをそのまま広げていったわけではありません。田んぼが作られる前、大きな事件があったのです。それは、生駒山の方からきた大きな洪水でした。この洪水はあたり一面に広がっていた湿地を砂で埋めてしまったのです。その結果、湿地でコメ作りができなかった土地が砂で埋められ、田んぼに適した土地へと変わっていきました。洪水による砂の^{たいせき}堆積が、コメ作りを拡大させた大きな原因のひとつになったのです。



土器



土器



池島・福万寺遺跡と周辺の遺跡（縄文時代晩期から弥生時代前期）

池島・福万寺遺跡のある河内平野には、コメ作りがはじめられる前後のたくさんの遺跡があります。その当時（2000～3000年前）河内平野の北部には、「河内潟」とよばれる入り江が広がっていました。現在でいえば、島根県の中海や宍道湖のような海水と真水の混ざるような環境であったと考えられます。この入り江の周辺にある縄文時代晩期の森の宮遺跡、日下遺跡、宮ノ下遺跡では、貝塚がみつかります。山賀遺跡や若江北遺跡など入り江から少し離れた小高い所では、弥生時代前期のムラが営まれていました。また、志紀遺跡と田井中遺跡一帯では、弥生時代前期の集落跡と水田跡がセットで見つかります。池島・福万寺遺跡では、遺跡南東部の小高い所に弥生時代の集落が想定されていますが、現在のところその実態は不明です。一体、田んぼはどんな人たちによって営まれたのでしょうか？

- | | | | | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|----------|-----------|
| 1. 日下遺跡 | 2. 水走遺跡 | 3. 鬼虎川遺跡 | 4. 植附遺跡 | 5. 西之辻遺跡 | 6. 鬼塚遺跡 | 7. 縄手遺跡 | 8. 馬場川遺跡 |
| 9. 大竹西遺跡 | 10. 森の宮遺跡 | 11. 宰相山遺跡 | 12. 宮ノ下遺跡 | 13. 新家遺跡 | 14. 瓜生堂遺跡 | 15. 巨摩遺跡 | 16. 若江北遺跡 |
| 17. 山賀遺跡 | 18. 友井東遺跡 | 19. 美園遺跡 | 20. 佐堂遺跡 | 21. 桑津遺跡 | 22. 久宝寺遺跡 | 23. 亀井遺跡 | 24. 長原遺跡 |
| 25. 瓜破遺跡 | 26. 八尾南遺跡 | 27. 田井中遺跡 | 28. 志紀遺跡 | 29. 恩智遺跡 | 30. 船橋遺跡 | 31. 国府遺跡 | |

